



サステイナブルなパームオイルの調達・供給に向けて

近年、食料や工業用品の原料、発電事業の燃料として
パームオイルの需要は世界的に増加傾向にあります。
それを受けて、東南アジアの主要原産国では、
熱帯雨林を伐採などの環境問題のほか、
雇用や労働環境等における人道的な問題につながっていることが
さまざまな組織・団体から報告されています。



こうした問題の解決に向け、
環境や人権等に配慮して生産された「持続可能なパーム油」の調達を
目指す動きが国際的に加速しており、
日本でも業界の垣根を超えて、
この課題の対応に取り組む企業が増えています。



私たち三恵エナジーは
パームオイルを燃料とするバイオマス発電事業のコンサルティング業務を
お任せいただいている立場にあり、
こうした世界の動きとお客さまのニーズに対応すべく、
サステイナブルなパームオイルの調達・供給に向けて
独自にロードマップを策定し、具体的なアクションをはじめています。



この取り組みに関する進捗報告や展望については、
今後、随時レポートを更新し、発信していきます。

2019年4月、ガイドライン(バイオマス発電)の改正

経済産業省が定めた「再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT制度)」は、再生可能エネルギーの普及を目的として2012年7月にスタートしました。

その後、適宜改正が行われ、2019年4月版ではバイオマス発電の燃料の一つであるパームオイルについても発電事業者に対し、さらなる「持続可能性」の確保・強化を求めています。

同時に、すでに運転を開始している発電事業者には、自主的取り組みの内容や経過等の関連情報を自社ホームページ等で開示することが指導されています。

「RSPO」をはじめとする認証システム

先述のガイドライン改正は、「持続可能なパーム油」の調達を目指す世界的な潮流とも合致しています。「環境保全」や「人権保護」の観点からパーム油の生産・流通に関する透明性を確保できるよう国際的な認証基準が求められるようになりました。そのもっとも大きな柱といえる認証システムが、WWFなどの関連団体が設立に寄与した非営利組織「持続可能なパーム油のための円卓会議(英名:Roundtable on Sustainable Palm Oil)」が推進している「RSPO」です。



- 1 透明性へのコミットメント
- 2 適用法令と規則の遵守
- 3 長期的な経済・財政面における実行可能性へのコミットメント
- 4 生産及び搾油・加工時におけるベストプラクティス(最善の手法)の採用
- 5 環境に対する責任と資源及び生物多様性の保全
- 6 農園、工場の従業員及び、影響を受ける地域住民への責任ある配慮
- 7 新規プランテーションにおける責任ある開発
- 8 主要活動分野における継続的改善へのコミットメント

また、「RSPO」以外にも、パームオイルの原産国が主導して定める認証システムがあり、その中でもマレーシア政府の「MSPO」推進の取り組みは、「RSPO」に準ずる規格として、その普及状況の推移が世界の発電事業者から注目を集めています。